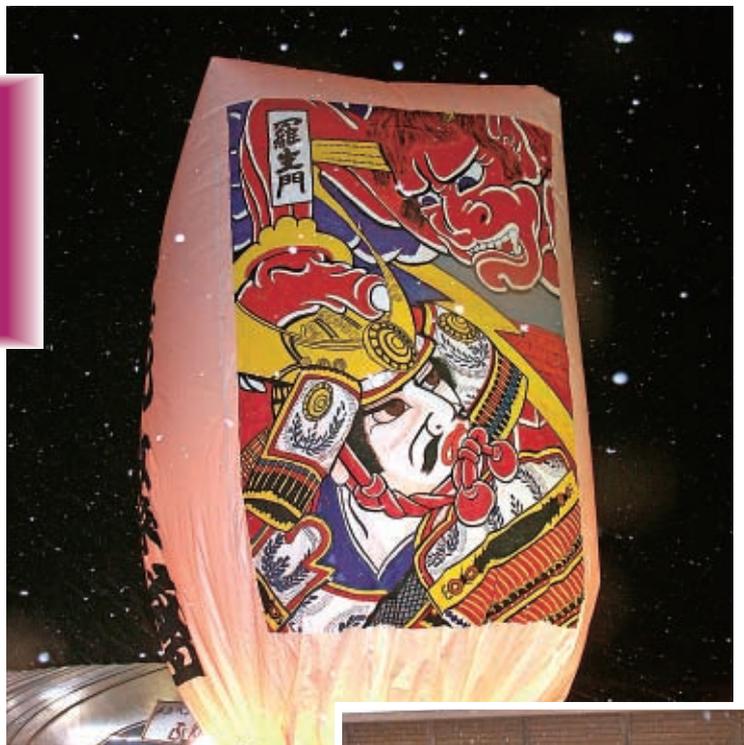


# 上桧木内の 紙風船上げ

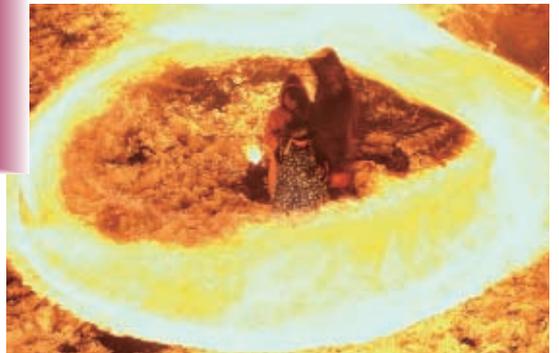
冬の風物詩として知られる、2006西木の冬祭り「上桧木内の紙風船上げ」が、2月10日、紙風船広場（上桧木内大地田地内）で開催され、2カ月かけて制作した紙風船約100個が、冬の夜空を幻想的に灯しました。

この紙風船上げは、江戸時代の科学者、平賀源内が銅山の技術指導に訪れたときに伝えられたとも言われ、午後6時からの一斉打ち上げでは、「商売繁盛」や「家内安全」などの願い、美人画や武者絵、アニメキャラクターなどが描かれた紙風船が、ほのかな灯りに浮かび上がり、次々と冬の夜空に舞い上がりました。

舞い上がった瞬間には会場は大歓声に一つまれ、紙風船の行く方向をいつまでも見つめていました。



# 冬の夜に浮かぶ炎の輪 角館の火振りかまくら



無病息災を祈り子どもを抱えて火をまわす

400年以上の伝統を持つ角館町の小正月行事「火振りかまくら」が2月13日に旧角館高校グラウンド、14日は町内36カ所で行われました。

縄のついた炭俵に火をつけて身体を回し、田んぼの厄を払うとともに五穀豊穡や無病息災、家内安全などを祈願する伝統行事です。

今年は、あいにくの雨に見舞われましたが、1年の無事を願う炎の輪がいくつもひろがり、冬の夜を彩りました。

